



第四十四回若布献上の儀

5月祭事暦

- 毎月1・15日 つきひ 月次祭
午前10時 高宮祭 第二宮・第三宮祭
引き続き 宗像護国神社 月命日祭(1日) 遙拜(15日)
午前11時 総社祭 浦安舞 奉奏(1日) 豊栄舞 奉奏(15日)
- 5日 五月・浜宮祭
午前10時30分 浜宮祭 於…宗像市神湊 浜宮
午前11時 五月祭 於…宗像市江口 五月宮
- 27日 沖津宮現地大祭
午前 7時 大島港 出港 於…沖ノ島 沖津宮

三月十五日(水) 神島宮司、地元漁協関係者らが宮中に参内し、天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下、賢所、三笠宮家へ早春の玄界灘産の若布を献上申し上げた。

献上した若布は海洋神事奉賛会(宗像・鐘崎・津屋崎各漁協で構成)の会員が、まだ寒さ厳しい三月初旬の玄界灘で採取した初若布を当大社に奉納、それを神職・巫女が規定の量を袋に納め献上若布として奉製した。

今年の若布は順調に生育していたが、海上模様の悪い日が多く二月後半の採取予定が遅れ、三月初旬採取開始となった。悪条件にもかかわらず、若布の品質はとてすばらしく古来より伝わる乾燥方法で加工を施し、磯の薫る良質のものとなった。

三月十四日(火) 午前九時三〇分、御本殿で若布献上奉告祭を斎行。献上の無事安全を祈り、献上者一行は出発した。福岡空港到着後、第二ターミ



「箸で始まり、箸で終わる」▼日本人は、一般に生後百日目の「箸始め」の祝いから始まり、亡くなると故人愛用の箸を枕飯につきたてる一膳飯の「立て箸」で終わる。箸が「生命の杖」といわれる所以であろう▼古来より箸には、神様やこれを使う人の靈魂が宿ると信じられ、神話の中にも、須佐之男命が出雲の肥河上で箸が流れてくるのを見て人の住むのを知り、八俣の大蛇を退治するきっかけをつくる「出雲の流れ箸」などがある▼祭祀においても箸は神と人とを繋ぐ神人共食の神具としてよく用いられ、宮中祭祀の中でも、最も重儀とされる新嘗・大嘗祭では陛下が神々と対座し、神々と共に新穀をお箸にてお召しになる。当社の「古式祭」においても、古儀に則り神前には特殊神饌と栗の箸が供えられ、御座では稲穂を刺し立てた御飯を栗箸でいただく▼昔から人に不快や不浄感をあたえるような箸使いを嫌い、箸指し、箸渡し、寄せ箸等といい、不作法な行為とされ、箸使いを見ればその親がわかると言われるぐらい、箸使いにはその人の人格がでるといふ▼子供の躰の始めとして、まず箸の使い方から入ってみてはいかがでしょうか?(N・M)



神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045 福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番

本店 〒600-8231 京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)~4番
(075)343-3341番

井筒

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567



ナル搭乗口で、一般の乗客をはじめ、空港関係者、報道陣が見守る中、当大社巫女より全日本空輸(株)客室乗務員へ若布を手渡すセレモニーを行い、一行は午後一時五分ANA二五四便に搭乗、空路東京へと向かった。

翌十五日(水)午前十時、神島宮司、随行神職一名、長澤孝信氏(津屋崎漁協組合長)池浦輝幸氏(宗像漁協福岡支所長)、出光興産社員一名の五名が、乾門より宮中へ参内。

羽毛田信吾長官、井関秀男掌典に若布献上の旨を言上、天皇・皇后両陛下、皇太子、同妃両殿下、三笠宮家に献上申し上げた。その後、神島宮司が宮殿で記帳を行い、



本年の若布献上者は左記の通り

掌典職案内のもと宮中三殿参拝の栄を賜り、平成十八年「若布献上の儀」は滞りなく終了した。

宗像大社 宮司 神島 定
宗像大社 権禰宜 飛来 孝佳
津屋崎漁協同組合 組合長 長澤 孝信
宗像漁協福岡支所 支所長 池浦 輝幸

尚、本年の若布献上に際し、格別の御支援を賜りました出光興産



(株)・全日本空輸(株)をはじめ、多数の方々に紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

若布献上の儀について

若布献上は昭和三十八年、宗像七浦と称される旧大島・鐘崎・神湊・勝浦・地ノ島・津屋崎・福岡(現在は宗像・鐘崎・津屋崎の三漁協)の漁協組合員で構成される「宗像大社海洋神事奉賛会」(会長 村田繁美氏)設立の際に始められた。

当時は新幹線も開通しておらず、夜行列車で上京されたようである。それが新幹線となり、現在では空路で若布を運び宮中へ献上申し上げている。

かつて若布は、宗像七浦各地で採取されていたが、現在は地ノ島の沖合いで採取され、同島特産の椿油を塗った板に若布を張り付け、天日で干す「板干し」という古来からの加工法で調製される。

加工された若布は例年三十kg当大社に奉納され、神職・巫女が形を整え規定の量ずつ袋詰めする奉製作業が行われ、その中から厳選したものが六kg(一、五kg×四所分)を献上品としている。

宮内庁のご指示を仰ぎ献上日を決定。現在、賢所、天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下をはじめ、昭和四十四年十月に宗像三宮を御巡拝、特に沖ノ島にも渡島され、当時行われていた学術調査を御視察された三笠宮崇仁親王殿下へも献上申し上げている。

今年で四十四回目を迎えたこの「若布献上」は、秋の「みあれ祭」海上神幸」と並ぶ同会の一大行事である。

主基地方風俗舞アクロス福岡公演



各地に伝わり脈々と受け継がれている神楽や舞を紹介し続け、今年で七年目となる「伝統芸能フェスティバル」祝奏「アクロス」が、三月二十一日アクロス福岡で開催され、当大社神職、保存会員が出向し「主基地方風俗舞」を披露した。

当日は主基地方風俗舞の他に、筑前琵琶・博多独楽が実演され、一二

男性舞に見入っていた。

会場こそ一〇〇名ほどの収容ではあったが、アクロス福岡内の大型スクリーンにおいてもその様子は伝えられ、道行く多くの人々もそのスクリーンの前で足を止めていた。

午後二時半公演は終了し、保存会長の田中保政保氏、舞方であり数少ない二十代の会員である清水陽介氏

○名収容の円形ホールは午後一時半の開演時にはほぼ埋め尽くされた。周知の通り、昭和天皇ご即位の大嘗祭で奉奏された昭和の主基地方風俗舞は、特例で当大社に下賜され、現在春秋の大祭で宗像大神の御神前でのみ奉奏されている。この事をご理解頂くため、会場には御神燈・注連縄を張つての公演としたが、観客一同にも充分伝わったのか、舞が始まると観客の皆様は物音一つ立てず、その勇壮な



舞方	吉武 倫彦
中野 正徳	
清水 陽介	
深田 龍介	
歌方	石津 典秀 (尺取り)
吉田 敏幸	
中野 修	
岩佐 洋一	
福崎 武志	

(二十七歳)、深田龍介氏(二十三歳)がインタビュを受け、会長から風俗舞の意義・歴史が説明なされた後、マイクが若い会員二人に向けられると「地元青年として保存会に在籍し、宗像大社春秋の大祭でこの伝統ある舞を奉納出来ることに大変誇りを持っている。今後さらに舞の技術に磨きをかけ、次世代の会員が加わった時には、自分たちがきちんと指導できるようにしたい」と答えると会場からは大きな拍手が沸き起こった。

新人紹介

4月1日付で、巫女2名が新たに加わりましたので、ご紹介致します。

①氏名 ②生年月日 ③出身 ④経歴(学歴) ⑤特技(趣味) ⑥抱負



- ① 北村 夏奈絵
 ② 昭和62年8月7日 (18歳)
 ③ 宗像市田久 ④ 県立遠賀高
 ⑤ 自転車での散策、読書、イラスト

⑥ 今は電車、バス通勤ですので、はやく自動車の免許を取って車通勤をしたいです。まだまだ未熟者ですが、一つ一つ確実に社務を覚え、皆様のお役に立ちたいと思いますので、御指導、御鞭撻の程よろしくお願ひします。



- ① 松崎 理加
 ② 昭和62年9月5日 (18歳)
 ③ 古賀市薬王寺 ④ 私立精華女子高
 ⑤ 音楽鑑賞、日本舞踊 (藤間流)

⑥ 祖母の薦めで三歳から日本舞踊をしています。巫女さんの務めには神楽舞が必須ですので、その経験を生かし、御神前で優雅に舞を舞えるようになりたいです。今は、覚えることが多々あり毎日が必死ですが、はやく慣れ、皆様のお役に立ちたいと思います。よろしくお願ひします。

春季大祭 齋行

四月一・二日の両日、春季大祭が斎行された。例年であると境内の桜は満開だが、今年は桜の開花が遅くまだ数輪しか咲いていなかったが、春の陽気の中、境内は多くの氏子・崇敬者らで賑わった。

四月一日午前十一時、神島宮司以下神職、氏子奉幣使、鎮国寺立

部瑞真べずしん副住職、主基地方風俗舞保存会員、浦安舞奉仕者、総代等が齋館前に列立し本殿へ参進。

神島宮司が国家鎮護・皇室安泰・五穀豊穡を祈念する祝詞奏上、続いて氏子会を代表し塚本義人氏（福津市東福岡）が奉幣詞を奏上した。その後、保存会の御奉仕により、



宮中舞楽の手振りを伝える「主基地方風俗舞」、更に玄海中学校女子生徒による「浦安舞」が奉奏され、春を告げる神苑に悠遠な平安絵巻が繰り広げられた。

翌二日は、午前十一時より二日祭が斎行され、海上安全、大漁満足が祈念され



た。祭典後には皇室に献上された「若布」を採取された奉仕者に対し、当大社より感謝状と記念品が贈呈された。

その後、第二宮、第三宮、宗像護国神社へと、宮司以下各神職・参列者がそれぞれの祭場へ進み、各所で春祭が斎行された。

宗像護国神社祭では、福岡県護国神社坂口禰宜、宗像・福津両市の遺族をはじめ一〇余名が参列する中、護国の英霊をお慰め申上げると共に、遺族並びに両市民の弥栄が祈念された。

同刻儀式殿に於いては、交通安全全講社祭が斎行され、講員皆様の今年一年の交通安全が祈念された。午後二時から、本殿に於いて献茶祭が行われ日頃熱心に茶道を学ん

だ当大社巫女が、南坊流の袱紗さばきも爽やかに御点前を披露した。かくして二日間に亘る春季大祭も無事斎行され、春の一大神事も滞り無く終了した。

この春季大祭であるが、戦後間もなく（昭和三十年代）までは、春のこの時期に当大社所蔵の御神宝・古文書を虫干しし一般に公開する祭事が行われていた。

これを秋の「放生会」に対し「保存会」と称し、人々の楽しみとなっていた。

昭和三十九年の『宝物殿』竣工に伴い、保存会の呼称も消えていったが、今も昔もこの保存会（現「春季大祭」）の時期は、神郡宗像に春を告げる行事として多くの人々が境内に足を運んでいる。



浦安舞奉仕者
中野 美菜
嶺 日香里
岩佐 侑香
吉井 恵梨

主基地方風俗舞奉仕者
中野 正徳（舞方）
清水 洋介（〃）
鎌田 真史（〃）
八尋 省吾（〃）
石津 典秀（歌方）
岩佐 洋一（〃）
吉田 敏幸（〃）
吉武 倫彦（〃）
菊本 兼二（〃）

大島・中津宮で沖・中両宮春季大祭

四月十一・十二日、筑前大島で沖津宮・中津宮両宮の春季大祭が斎行された。

十一日は生憎の雨模様に見舞われたが、島の北側に鎮座する沖津宮遙拝所及び中津宮で、明日の大祭が無事斎行される事を祈る宵宮祭が斎行され、明日の打合せを兼ねながら、社務所で神職及び奉賛会の皆様と直会

を行った。

翌朝は前日までの雨が嘘のように晴れ上がり、絶好の日和となった。

午前八時半より、宮崎区の厳島神社で、同九時より沖津宮遙拝所、同九時半より大島最高峰にある御嶽神社でそれぞれ祭典を斎行。

午前十一時に、中津宮の春季大祭が斎行され、神島宮司を斎主に氏子

奉幣使として島民の船越勇治氏が奉仕する中、巫女による「浦安舞」も奉奏され、島民はもとより島外より多数の皆様に参加頂き、境内に桜吹雪が舞う中、厳肅に祭典が斎行された。

その後、昨年度に猷魚・献品をご奉納戴いた皆様に感謝状を贈呈し、照海殿で一〇〇名程の参列者が集う中、賑やかに直会が開かれた。

続いて午後一時半には中津宮境内にて大島小学校児童全員参加により奉納相撲大会が開かれ、沖中両宮翼

賛会（会長 上野美実）小学校教諭のご奉仕により保護者、島民は一層の賑わいを見せ、盛大裡に本年の春季大祭を無事終了した。



第二期展示品の入替え作業を実施 新たに神宝九十九点が九州国立博物館へ

昨秋、国内で四番目の国立博物館として華々しく開館した九州国立博物館（以下、九博）。古都・太宰府の地に産声をあげてから半年を迎えた今も、同館や周辺地域は、予想を遥かに超える多くのの方々により、連日大変な賑わいをみせている。

そのような中、九博開館時に出品の貸出期限が近づいたため、今春以降の出陳品を検討、内容が決定し、去る四月三日、九博において展示品の入れ替え作業が行われ

た。

作業は、当社文化財管理事務局長と学芸員の立会いのもと、九博文化財課小林学芸員の企画案にそって進められ、途中、展示業者や美術梱包業者も加わりながら、厳肅に慎重に行われた。

特に時間を費やしたものは、銅鏡の展示。傾斜四十五度のアクリル製展示台に銅鏡と同大のシリコ



方格規矩鏡

ンを敷き、その上に銅鏡を載せ、三、四箇所固定場所を定めた後、表面をシリコンで覆った鉄の鋳を傾斜台へ打ち込み、銅鏡を固定して

いく、という大変な作業であった。銅鏡を傷つけぬように注意を払いながら、確実に固定しなければならなかったため、皆、神経を研ぎ澄ま



金銅製棘葉形杏葉

して作業に携わった。九博の四階にある「文化交流展示室」には、常設展示として、九州と東アジアの交流史の足跡を示

す文物が数多く公開されている。九博では、開館に際し、常設展示の古墳時代エリアの一角に、沖ノ島の祭祀遺跡から出土した神宝類を展示するコーナーを設けることを企画、当社へ神宝の借用を要請、当社はそれに応え、開館から約半年間、神宝の貸出を行ってきた。

その内容は、三角縁神獸鏡や金銅製龍頭、金銅製心葉形杏葉といった代表的な優品や、金属製雛形品や滑石製模造品、土器といった神聖な祭祀品など計一二二点で、豪華かつ豊富な神宝類は九博の常設展示の中枢をなしてきた。



銅鏡を展示台へ設置する学芸員



第一期展示風景



銅鏡の配置について、皆で思索し、検討した。

出土品コーナーを飾る神宝は、巨大な方格規矩鏡や朝鮮半島製の金銅製

下記のように、展示が変わりました



第二期展示風景

棘葉形杏葉、色とりどりのガラス小玉、ユーモラスな形状の滑石製子持勾玉など計九十九点(ガラス小玉を六連と数えた場合の総数)。作業実施の翌日、四月四日から「玄界灘に生きた海人たちの動向」というテーマで、韓国竹莫洞祭祀遺跡出土品や長崎県壱岐市笹塚古墳出

土品と合わせて紹介されている。この度の出陳期間は、三月末から十月中旬までの約半年間の予定である。引き続き、多くの方々にご覧頂き、宗像三女神の神威や祭祀の歴史的意義の尊さを、心に刻んでもらえればと期待している。

(続)

浜の寄物

203

いしいただし



五月二十七日は沖津宮の現地大祭である。沖ノ島を世界遺産にという動きも活発で、九月末にはシンポジウムも予定されているようだ。沖ノ島は博多から直線距離で七km、福津市から六五km、遠賀郡

岡垣から六〇km、筑前大島から四八km、玄界灘の真只中に浮んでいる。島の最高所は二四三・六mである。沖ノ島が本土や島から見える所がある。もつとも、晴天で、空気が澄み（黄砂が飛ばない時）雨

端から白石浜側と勝浦浜側（約一〇〇m）が見える範囲である。福津市東福岡の津丸西ノ後遺跡は標高四八mの丘陵地だったが、ここに沖ノ島様と呼ばれたところがあり、板石があつた。現在は丘陵全体が削平されて住宅地となっている。この丘陵から直接、沖ノ島は望めないが、沖ノ島に対する何等かの信仰があつた可能性がある。福津市の東郷公園のある大峯山は標高一四・五m、コンクリートの三笠の砲台が、玄界灘をむけて造られている。そこからも見える。宗像市田野にある田野瀬戸古墳は全長三八mの前方後円墳で、今年宗像市文化財の指定を受けた。後円墳にあがると沖ノ島が見える。宗像市鐘崎から遠賀郡波津へ抜ける海岸道路からも島が見える。古賀市の鹿部山（標高五九・四m）も、地元の安倍正喜氏が年に数回島影を確認している。筑前大島の岩瀬は沖ノ島遥拝所がある。ここからは沖ノ島まで約



福津市津丸西ノ後遺跡の調査。中央に石が見える

約二〇〇m、幅約八mの石組みの掘り切り）、この前提では五月二十七日に沖ノ島籠り（浜籠り）が行われていた。前方に浮かぶ筑前大島の左端、指二本のところに沖ノ島がぼくと浮かんている。夜は沖ノ島灯台の明かりが分かる。沖ノ島は梅津の突

四八km、また島の最高所御嶽（標高二一七m）の展望台からも見える。糟屋郡新宮町の相島のタチノダンは高さ約四〇mの玄武岩の断崖絶壁で、下には穴観音が。その断崖からも沖ノ島が望める。島の最高所高山は七七m、黒田藩の遠見番所が置かれ、石垣の上に物見櫓が組まれられ、異国船の監視にあつた。当然のことながら沖ノ島もその視野に入っていたであろう。昭和五一年に灯台を横に設置されて玄界灘が一望できないこととなった。新宮町の立花山（三六八m）や対馬が見えた



という福津市の対馬見山（二四一m）も見えるにちがいない。いつしかも 見むとおもひしむなかたの沖の御島を見るがともしき（青柳種信）



第五三七回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



宗像市 大井 木原 ふさ子

子育てを樂しと言ひて帰りたる息子の言葉おもひ庭掃く

(評) 子に寄せる信頼の情にある作者である。

宗像市 曲 天野 玲子

いつの間か居眠りてをり若き日にときめき観たる恋愛映画に

(評) 加齢の嘆き、甘美な過去。

福津市 中央 池浦 千鶴子

明け方の浅き眠りにわが編し帽子かぶりて父のいできぬ

(評) 父恋いのうた。

福津市 在自 増田 武光

にわとりは空忘れしと思へども高みに眠ることぞ哀しき

(評) 放し飼いの鶏は夜は木の枝に飛び上つて眠つたものである。面白いうた。

宗像市 鐘崎 安永 久子

色を合せ帽子衿巻編みつきぬあの人この人おもうかべて

(評) 往時追懐にひたる一時。

宗像市 大島 杉田 禮子

宿の灯のともれば心なごみくる時化の日つつく島の冬場は

(評) 初句は「どの家も」

福津市 光陽台 香月 照子

雨の朝うぐいすの声きこゆれど腰の痛みに動きもならず

(評) 上句は「鶯の声のきこゆる雨の朝」、結句は「身動きならず」としたい。

うきは市 浮羽町 向 則正

植樹祭貰るし苗の山桃は二十年へて花咲き満つる

(評) 一、二句は「植樹祭に貰ひし」結句は「花の咲き満つ」と助詞は丁寧。

北九州市 八幡 永田 久美子

老いて座す日々多かりき庭淋し菓箱造りて持ち来る伴

(評) 二、三句は「事のみ多き吾が日々」としたい。

宗像市 田久 巻 桔梗

ひと枝を共に育む樫ふた木(神の縁)と注連は延はれたり

(評) 上句は詞書きを持って来て「相生の樫と呼はるる大き樫」は如何ですか。

福津市 星ヶ丘 佐々木 和彦

真鴨等の旅立つ頃か池岸の杏の花々見送らんとす

(評) 三句以下「池岸に見送る」とく杏の花々の方が順直な叙し方と思うが。

宗像市 光岡 森田 富佐子

桜花待つ季節はずれの寒戻り待ちわびる木をひたすら見上ぐ

(評) 二、三句は「待つに寒さの戻りきて」とすべき。

宗像市 池田 森 龍子

枯草の敷きて湿れる野をゆけば遠目に青きは草の芽立ちか

(評) 「枯草の敷きて」が判らない。「敷かれたる枯草」か「枯草の伏して」なら判るが。

宗像市 田野 森 甲子

上海に日中友好のかけ橋と桜を植うる中国留学生

(評) 新聞記事の一節のようで作者が見えないのが残念。

福津市 中央 中村 勇

開花予想知らせる毎に市役所の桜並木を確かめにゆく

(評) 「知らせる」では作者自身が知らせることになる。「記事出る毎に」であろう。

宗像市 日の里 大和 美由紀

神鈴の紐新しく替へられて初午近き古宮に来し

(評) 三句以下「替へられし古宮に來ぬ初午近し」と直したい。

福岡市 南区 井田 有久衣

夜も更けて車椅子にて厠へと廊下に出ればナースの笑顔

(評) 治療を受けながらも猶、独立心を失わない作者である。

選者詠

手をふりて砂丘をのぼりゆく友をエンジユの若葉の下に見送る

砂丘に咲く昼顔のうすき紅八十歳は期しがたき年

白兔神社祭りは明日と少年ら海のひかりに神楽を復習ふ



宗像大社歌会 俳句作品集(五二二)

宗像市 東郷 田中 憲象

伊部の国の九大キャンパス風光る

宗像市 日の里 花田いつ枝

啓蟄や展示会場人うごめき

宗像市 光岡 白土 凌一

桜咲き吾身も踊る心もや

編集後記

俳句の投稿が少ない月はこの欄を多く書かねばなりません。しかしスランプでこの何ヶ月かは愚息の話題に集中しております。読まれていないよう

で、意外と読まれているのがこの欄で、地元の方にはよく、あなたが書きよ

やろ「ボクはどげんね」と舌を掛けて頂き、終には名前ではなくM・Oさん

とも呼ばれます。ほのほのとした、読んで楽しいことを書いていきたいと思

います。▼今、日常の社務に加え、読みものづくりに取り組んでいます。当大社に

は神職・学者向けの神事界でも指折りの立派な「神社史」、神皇古学に興味のある方には、約八万点の国宝を網羅

した「図録」、一般の崇敬者向けの読み物「むなかたさま」を見て楽しめる「和文」が

あります。それぞれ二冊に対応出来る「これらを、勝手に「宗像大社四部作」と

と名付けました。しかし、「むなかたさま」は在庫切れ、「和文」も年数が経過し様

変わりした点が多々あり、最も必要とされる参拝者向けのものが不足しており

ます。「神社史」「図録」は立派なものが完成しておりますので、あとは、「むなか

たさま」「和文」を制作したいと考えて

おります。▼先ずは夏までに、「むなかたさ

ま」ですが、これがなかなか…。出来上

りましたら、この紙面でもお知らせす

るつもりです。期待下さい。(M・O)

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 伊藤佳和
編集人 大塚宗延
制作 ジーエータップ
印刷 セネラルアサヒ

宗像大社社務所
発行所

定価1年送料共1,000円